

品目：ブロッコリー

環境こだわり農産物の基準(5割以下の基準)

化学合成農薬(延べ使用成分数) 7成分以下(露地秋冬)

化学肥料(窒素施肥量) 15kg/10a以内(露地秋冬)

技術体系例 ブロッコリー 露地秋冬

生育ステージ	作付前		育苗			定植		生育期間中												
防除時期	作付体系	7~8月	定植前	7~8月		定植前	定植当日	全般			生育初期		生育中期		生育後期					
防除方法・使用資材・薬剤名等	ほ場ローテーション	太陽熱消毒	無病苗の購入	セル育苗・無病培土利用	雨よけハウス	防虫ネット	殺菌剤	殺菌剤	捕殺	病害株の引き抜き	フェロモントラップ (臨時防除)殺虫剤	不織布被覆	B T 剤	殺虫剤	B T 剤	殺虫剤	殺菌剤	殺虫剤	殺虫剤	
立枯性病害	★	★	★	★	★				★											
黒腐病	★								★											
軟腐病	★								★								●			
根こぶ病	★	★	★	★	★		●		★											
ヨトウムシ						★		★			★	★		★				●	●	
ハスモンヨトウ						★	●	★	★		★	★		★				●		
アオムシ						★	●	★			★	★		★	●			●	●	
コナガ						★	●				★	★	●	★	●			●	●	
オオタバコガ						★		★			★	★		★					●	
ハイマダラノメイガ						★					★									
アブラムシ類						★				●	★									
ネキリムシ類								★			★									
ナメクジ類・ウスカワマイマイ								★			★									
(例)使用農薬等		(石灰窒素)					ネビジン粉剤	プレバソンフロアブル5			フェロデインSL	スタークル顆粒水溶剤	寒冷紗・パオパオなど	ゼンタリー顆粒水和剤	パダンSG水溶剤	ゼンタリー顆粒水和剤	アタプロン乳剤	スターナ水和剤	コテツフロアブル	アフアーム乳剤
化学合成農薬成分数		(1)					1	1			(1)		1	1	1	1	1	1	1	

注) ●: 薬剤防除対象病害虫、★: 天然資材または耕種的手法

農薬の登録は随時変更があるので、農薬の使用にあたっては、必ず農薬ラベルを確認し適正に使用する。

* 印のものは、登録の対象害虫等が限られているので登録を確認する。

ほ場周辺は除草剤を使用せず、草刈機による管理またはグランドカバープランツを植栽する。

病気 **黒腐病** (くろぐされびょう)



ブロッコリーの病気の出かた
(葉のふちから枯れてくる)



キャベツでの病気の出かた

発生しやすい時期

9月中旬頃～11月中旬頃など

原因（発生要因）

- ・ 土の中に残った細菌からうつります。
- ・ 強い雨や風でできた傷、虫がつけた傷に、泥がはねて細菌が入ります。

対策（減農薬技術）

- ・ 栽培するほ場では、アブラナ科野菜の連作を避けます。
- ・ 早まきすると病気にかかりやすいので、適期に種をまきます。
- ・ ほ場は、水が溜まらないようにしっかり排水します。
- ・ 台風の後には、すぐに銅水和剤（Zボルドーなど）を使って予防します（銅剤の青色が付くので、つぼみが見えたら使わない）。
- ・ 被害株を引き抜き、ほ場外に持ち出します。

害虫 **ヨトウ類** (ヨトウムシ・ハスモンヨトウの幼虫)



葉の表からのヨトウ類が食べた跡



葉を食べているヨトウ類

発生しやすい時期

8月下旬頃～11月上旬頃など

原因（発生要因）

- ・ 成虫が飛んできて、葉の裏に卵をかためて産みつけます。
- ・ 卵がかえって幼虫になると葉を食べはじめます。

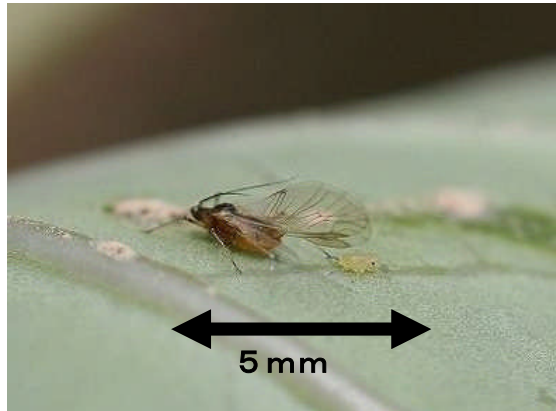
対策（減農薬技術）

- ・ 定植する時には、プレバソフフロアブル5をセルトレイにかん注します。この薬は長期間（3週間余り）効くので、防除回数が減らせます。
- ・ 葉の裏に卵や幼虫を見つけた時は、すぐに取り除くことで後の被害が軽くなります。
- ・ 虫が大きくなると農薬が効きにくいので、ほ場を観察して虫が出てきたら早めに薬剤を散布します。
- ・ BT剤（化学合成農薬として数えない農薬）を利用します。
- ・ 大豆やさといもでたくさん発生しますので注意します。

害虫 **アブラムシ類**



アブラムシのかたまり(葉の裏)



羽根の生えたアブラムシ(飛んできた)

発生しやすい時期

8月下旬頃～10月中旬頃など

原因（発生要因）

- ・ 羽根の生えたアブラムシが飛んできて、幼虫を産んで増えます。
- ・ 20～25℃で多くみられます
- ・ 雨が少ないとたくさん増えます。

対策（減農薬技術）

- ・ 早生などの作型で被害が予想される場合、定植するときは株元に登録のある農薬をまきます。
- ・ 光るものが嫌いなので、銀色のテープなどをほ場に張ります。
- ・ アブラムシが出ていないかどうか畑をよく見て回ります。出ていたら早めに登録のある農薬を散布します。農薬は、葉の裏にもかかるように散布します。

害虫 **アオムシ** → キャベツの頁を参照。